

中央防災会議 防災対策実行会議
南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ
第 29 回議事録

南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ（第 29 回） 議事次第

日 時：令和 7 年 3 月 27 日（木） 15:30～17:38

場 所：中央合同庁舎 8 号館 災害本部会議室

1. 開 会

2. 議 事

・とりまとめ（案）について

3. 閉 会

開 会

○藤本（事務局） それでは、ただいまより、「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」の第29回会合を開催いたします。

委員の皆様には、御多忙の中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。私は内閣府防災担当の藤本でございます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

本日も、前回までと同様、対面とオンラインによるハイブリッドでの会議形式を取らせていただいております。ハウリング防止のため、御発言される場合以外はマイクをミュートにさせていただきますよう、よろしくお願いいたします。また、対面で御参加の皆様におかれましては、御発言時はなるべくマイクを口に近づけて御発言いただきますようよろしくお願いいたします。

次に、本日の出欠状況につきまして御報告いたします。

越塚委員は所用により欠席となっております。渡邊委員は所用により欠席のため、代理として忌部守人様に御出席いただいております。

続きまして、本日の会議開催に先立ち、坂井学内閣府防災担当大臣より御挨拶を申し上げます。

坂井大臣挨拶

○坂井大臣 防災担当大臣の坂井学でございます。

南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループの開会に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

本ワーキンググループは、令和5年4月に設置されて以降、能登半島地震の発生や南海トラフ地震臨時情報の発表もあり、実に29回にもわたり活発な御議論、御意見をいただきました。福和主査をはじめとする委員の皆様の御尽力に御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

本日は、いよいよ報告書のとりまとめに向けた御議論をいただく場だと承知をいたしております。南海トラフ地震は今後30年間で80%程度の確率で発生すると言われており、また、その影響は広域かつ甚大であることから、その取組の推進を図ることは非常に重要と認識しています。

本ワーキンググループの報告書がとりまとめられた後、政府として南海トラフ地震防災対策推進基本計画の改定に速やかに着手し、地震・津波対策の一層の強化を図る所存でございます。

委員の皆様には、本日も大変貴重な御意見を賜りますようお願いを申し上げ、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○藤本（事務局） ありがとうございました。

坂井大臣及び今井政務官におかれましては、公務のためここで御退室されます。

（坂井大臣、今井政務官退室）

○藤本（事務局） それでは、報道関係機関の方々もここで御退室をお願いいたします。

（報道関係者退室）

○藤本（事務局） 次に、事前に配付しております本日の資料を確認させていただきます。

議事次第、委員名簿、非公表資料1～13がございます。

本日の会議では、非公表資料 1～4 及び非公表資料13を中心に御議論いただきたいと考えてございます。

対面で御参加の皆様には、今ほど申しました非公表資料 1～4 及び被害の様相をまとめました 9 及び13につきましては、紙で配付をさせていただいております。その他の資料につきましては、電子ファイルを卓上タブレットのデスクトップ上に表示しておりますので、適宜御参照くださいますようよろしくお願いいたします。

なお、タブレットの操作方法につきましては、お手元にお配りしております操作方法の 1 枚紙を御覧いただければと思います。

また、卓上には、これまでの議論で既にお配りしました資料につきましても、ファイルにとじてあるものを参考として配付させていただいております。こちらの資料につきましては、会議終了後は卓上に置いたままにいただき、お持ち帰りにならないよう、よろしくお願いいたします。

資料につきましては以上でございます。不足等ございましたら、事務局までお知らせください。

それでは、以降の進行は福和主査にお願いしたいと思います。

福和主査、よろしくお願いいたします。

○福和主査 福和でございます。

本日も、皆様、お集まりいただきましてありがとうございます。今日は、対面で参加していただいている委員の方がとてもたくさんいらっしゃるので、ぜひ活発に御議論をいただければと思います。

早速、本日の議論に入ってまいりたいと思います。

本日は、とりまとめ案について事務局から説明をしていただいた後、できれば今日で最終とさせていただきたいと思っていますので、議論はさせていただきたいと思いますが、できるだけ前向きな議論をさせていただけると幸いです。

基本的には、これまで委員の皆様全員から出された御意見を十分に反映したものになっていると思います。今日は、最終確認という意味で御議論をいただければと思います。ひょっとしたら、てにをはとか誤字・脱字があるかもしれませんので、それも含めて、もしも見つけたら御指摘をいただければと思います。

それでは、事務局から資料の説明をお願いいたします。

資料説明

○森久保（事務局） 事務局の森久保でございます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

まず、非公表資料 1、表紙が「ワーキンググループにおける意見等について」という資料でございます。

1 ページ目でございます。

報告書の全体像をお示したのになってございます。中ほどに、報告書本文、最大クラス地

震の被害想定、時間差をおいて発生する地震の被害想定、右のほうに行きまして、報告書の概要というものが1枚、非公表資料2となっているものと、その下の非公表資料3はもう少し詳しいな概要資料。それから、被害の様相のうち横断的に整理し直したのものとして非公表資料9というものになっておりまして、本日、紙もしくは電子媒体でお配りしているものの資料構成の全体像を示したものになってございます。

2ページ目からが、前回、第28回での御意見と対応方針でございます。基本的には反映させていただいてございますので、この場で1つずつ御確認をお願いできればと思います。

まず、通し番号の1番、●●委員から、概要資料の記載についてでございます。非公表資料3「報告書 説明資料」という横の紙があるかと思います。これの7ページ目でございます。左側、「被災者の生活環境の整備」という中で、下に写真とキャプションがございますけれども、もともとキッチンカーということで全体像を表し切れていなかったこともございますので、より広範囲に影響が出るような、セントラルキッチンでの炊き出しといったところに写真の差し替えを行っているところでございます。

2番目、災害関連死でございます。直接死と外数の関係でございますけれども、こういったものが少し分りにくかったところもございますので、誤解のないようにということで修正を加えてございます。非公表資料2、会場の方はA3の折り込みで1枚お配りしているもの、報告書の概要でございます。左上、死者数が29万8,000人とか全壊消失棟数235万棟と書いてございますけれども、その少し下に【参考】として災害関連死者ということで2万6,000～5万2,000人ということで、29万8,000人の外数で、あくまでも参考値だということをより明確にしたつもりでございます。

御意見の3番目、これからの心構えのようなものをメッセージ集として取りまとめた資料を追加いただきたいというものでございます。今御覧になっていただいたA3の右下、「被害軽減に向けて」ということで、この箱を追加してございます。「対策に取り組めば被害は軽減できる。被害想定の大小や増減だけに焦点を当てたり、一喜一憂したりすることなく、国民・事業者・地域・行政が、とるべき対策を着実に実施することが必要。特に、被害の防止・軽減のためには、住宅の耐震化や家庭での備蓄、迅速な避難行動に取り組むことが重要」ということで、右側にグラフもつけてございます。これは津波による死者数の例でございますけれども、全員が発災後10分で避難を開始した場合には死者数を3割まで減らすことができるといったことも、被害軽減に向けたメッセージとして記載をしてございます。

また、先ほどの9ページものの非公表資料3でございますけれども、これも最後の9ページ目に同様に「被害軽減に向けて」というページを追加してございます。行政主体による対策だけでは限界がある、ですので、国民・事業者・地域・行政がともに災害に立ち向かうことが必要だということ。それから、自らの命は自らで守るということで、耐震化、備蓄、それから、避難の意識が大事だということ。事業者の方々や行政は、自分の施設の強靱化に加えて十分な備蓄、それから、生活環境の整備、保健・医療・福祉の支援が必要だということ。BCPのこと。防災DXや民間リソースの積極的活用の話。新たな技術開発の必要性。それから、臨時情報の趣旨・制度等を踏

まえ、後発地震発生までの時間を大切に過ごすということのメッセージ。最後、一喜一憂したりすることなくということで、最後の締めは、対策に取り組めば被害は軽減できるので、この報告書が来る南海トラフ地震から大切な人の命を守ることにつながることを期待したいというようなことをメッセージとして書かせていただいております。

御意見の表に戻りまして4番目でございます。主体の中で、地域という主体も重要であるということがございました。今、読み上げたところに入ってございましたけれども、非公表資料3の6ページの真ん中の点線で囲まれている箱です。「国民・事業者・地域・行政がともに災害に立ち向かう」ということで、「地域」という言葉を入れてございます。この表現はほかの場所にも同様のところがいくつか出てくるという形にしております。

5番目、「発災後の被災者の生活環境の確保」の「発災後」というところが誤解を招くということもございましたので、非公表資料3の7ページ目の左側ですけれども、「被災者の生活環境の整備」ということで、以前は「発災後の」ということを書いておりましたけれども、それを削除してございます。

6番目、●●委員から、被害はこれだけ減らせるということの説明だということでございます。対外的な説明にあたって留意するとともに、非公表資料3の8ページ目でございますとおり、個人の取組として、左上が住宅の耐震化、左下が家具の転倒防止、右上が早期避難する意識、右下が感震ブレーカーの設置ということで、いずれも国民一人一人が取り組めば減らしようということはこの1枚にとりまとめることによって、みんなで減らしていこうというようなメッセージにつなげていきたいと思っているということでございます。

御意見の資料の3ページ目でございます。7番目、国際状況による影響も受けるということをも明記するべきだという御意見をいただきました。報告書本文ですので、非公表資料4の「南海トラフ巨大地震対策について（案）」でございます。これの34ページの2行目から追加してございます。3行目ですけれども、国際情勢も目まぐるしく変化している、特にアメリカにおいては第二次トランプ政権が発足し、政策とか影響については極めて重要であるので、引き続き高い関心を持って注視する必要があるといったことを記載してございます。

御意見の8番目、臨時情報の責任の話でございます。非常にデリケートなところでございまして、今日に至るまで個別にも調整をさせていただいたところでございます。非公表資料4の121ページの26行目からの段落がそれに相当するところでございます。臨時情報は新たな大規模地震の発生の可能性が相対的に高まっていることを周知することによって、人的被害を社会全体で少しでも軽減することを目的としているということでございますけれども、31行目からですが、自らの安全のための行動は自らが考えるものである、それから、臨時情報に基づく被害軽減の取組は社会全体で実施していくということで、自らが考えるということと社会全体でやっていくのだということをここに明確に示したということの修正を加えてございます。

御意見の9番目、●●委員から、「人文社会学」ではなく「人文社会科学」だということがございましたので、非公表資料4の133ページ目でそのとおりの修正を加えてございます。

10番目でございます。また臨時情報の話に戻りまして、臨時情報の不確実性という言葉の使い

方が適切ではなかったところがありましたので、非公表資料4の122ページ目の10行目、臨時情報のうち何が不確実性かという、臨時情報で発出されるメッセージに地震が起こるのか起こらないのかが分からないという意味での不確実性があるということを、少し不明瞭だったところを明確化したという修正を加えております。

11番目、被害発生メカニズムの解析は、理工学だけではなく社会科学の観点も不可欠であるという御指摘につきましては、非公表資料4の132ページの25行目から、地震対策の状況も考慮した被害発生メカニズムを理工学及び社会科学的に解析するための調査研究ということで、「理工学」と「社会科学」を並べて記載して、その研究が必要だということを書いてございます。

御意見の12番目、早期避難率の定義というところでございます。非公表資料4の15ページに戻っていただきまして、13行目から15行目にかけてその定義を書いてございます。津波からの避難行動が変わらなかった場合で、すぐに避難というものをさらに括弧で書いてあって、地震発生から、昼間の場合は5分後、夜間の場合は10分後に避難を開始するといったことをここで言う「すぐに避難」ということで定義づけているということを書いております。

13番目、「南海トラフ地震」と「南海トラフ巨大地震」の使い分けについて確認いただきたいということでございます。これは全般にわたるものでございます。まず、使い分けの考え方でございますけれども、前者の「南海トラフ地震」と言う場合は、南海トラフ地震といっても大きなものから小さなものまでいろいろありますけれども、それらの総称として使う場合は「南海トラフ地震」というのを使っております。そのうち、今回の被害想定の対象になるような最大クラスの南海トラフ地震については「南海トラフ巨大地震」という言い方をするというのを頭の整理をした上で、その観点で全体を見直して、それに合っていないものは修正するという作業を加えております。

14番目でございます。避難意識をさらに高めれば被害量が減少するといったことを書くべきだということがございました。非公表資料4の15ページ目ですけれども、津波からの避難行動が変わらなかった場合に、想定される死者数が33万2,000人から26万4,000人に減少ということでありますけれども、18行目から、早期避難率が令和元年度の調査で、29%だった場合は津波による死者数が14万3,000人に減る。令和5年度の調査で、早期避難率が53%といったものを使った場合はさらに11万7,000人まで減ることが推計されるということを書くことによって、早期避難率が高くなれば減るといったことのメッセージ性をここで出していこうと考えております。

御意見の表の4ページ目に行きまして、15番目でございます。●●委員から、防災対策の効果試算を出しているけれども、本文からも誘導できるようにという御意見をいただいております。非公表資料4の42ページ目、2か所ございます。2行目と16行目、それぞれ別冊の「最大クラス地震における被害想定について」、「時間差をおいて発生する地震の被害想定について」というものを指した上で、こちらを参照してほしいといったことを書いたという修正を加えてございます。

御意見の16番目、「フォローアップ」という用語は役所用語だという御意見を●●委員からいただきました。非公表資料4の15ページ目に戻っていただきまして、一番上の表題ですけれども、

【参考】として「対策の進捗状況」という言い方にしておりまして、「フォローアップ」という言葉はここからは削除しているところでございます。

17番目、●●委員から、地域社会の安全は地域社会全体で獲得していくものだという方針を前面にということでございました。非常に重要な御意見でございましたので、2か所にそれを記載してございます。1か所目は、非公表資料4の74ページの6行目、地区防災計画の記載のところでございます。地区防災計画が重要だということを書いておりますけれども、地域の安全を地域社会全体で獲得していくという方針の下、策定の推進を図る必要があるといったことを書いてございます。それが1か所目。

2か所目ですけれども、135ページの「おわりに」の17行目にも同じ記載をしてございます。「地域社会全体で地域の安全を獲得していくことが必要である」といったことを書いております。

18番目、「総力戦」の言葉のイメージがあまりよくないという御指摘がございました。行政のいろいろな計画の中で使っているところもございましたので、ここでは使わせていただくということでお願いできればと思っております。

19番目、●●委員から、地方部における車の移動に伴う渋滞の問題も記載すべきという御意見をいただいております。非公表資料4の105ページの34行目、「また、地方部においては、車での移動による渋滞が生じる地域・時間帯があることを念頭に置いて対応を実施する必要がある」といったことを追記してございます。

同じく●●委員から、20番目でございます。能登半島地震よりももっと大きな規模であることから、新たな政策を打ち出す方向性も検討する必要があるという御意見をいただいております。134ページの16行目でございます。「また、南海トラフ巨大地震は、これまで経験したことのないような広域かつ甚大な被害が想定されていることから、従来の取組や現行の制度にとらわれることなく、防災対策を抜本的に強化することも含めた検討も必要である」ということを記載してございます。

御意見の21番目、民間企業のリソースの活用の話の御意見をいただいております。135ページの33行目に、「民間リソースの積極的活用等により」という言葉を追加してございます。

同じく●●委員から、22番目の御意見です。「地域の持続性の維持や、被災しても復興できる地域社会」ということで、135ページの30行目、「地域の持続可能性の維持のため」といった言葉を追記してございます。

御意見の23番目、●●委員から、防災庁設置の議論が並行して進んでいることについての御意見をいただいております。134ページの10行目から、「令和8年度中に設置予定の防災庁において、平時における防災業務の企画立案機能を抜本的に強化するとともに、平時から発災後、そして復旧・復興段階にかけて一連の災害対応における統一的な司令塔機能や地域防災力を強化する機能などを防災庁が担うこと」といったことで、それとのつながりをここに記載しております。

御意見の資料の5ページ目でございます。24番目、●●委員から、「各機関が収集・発信しているデータ等」と、「災害対応に従事している事業者等が収集・発信しているデータ等」が同一のものと読めるというような、ちょっと誤解を招くような表現がございましたので、130ページの

11行目から、「各機関が収集・発信している情報やデータ等だけでなく、関係事業者と連携し、災害対応に従事する事業者等が収集・発信しているデータ等」ということで、同一のものではないことをより分かりやすく修正したつもりでございます。

同じく、●●委員から25番目でございます。DX化とデジタル化は違うということでございますので、130ページの16行目からの段落でございますけれども、「DX化に当たっては」ということで、「DX化」という言葉に統一をしております。

それから、「被害想定への御意見」ということで、26番目でございます。●●委員から、災害関連死の推計にあたって、場合によってはさらに多くなる可能性があることも含めて修正すべきという御意見をいただいております。これは非公表資料6でございます。画面で御覧になっていただければと思います。28ページ目の（2）で、発災後の状況によって災害関連死につながり得る要対処人口ということで、建物被害人口、停電人口、断水人口、避難所避難者数ということで、定量的な評価としては2万6,000人～5万2,000人ということで一旦幅を持たせて算出をしつつ、それに加えて、こういう人たちが災害関連死につながる可能性のある暴露人口ということで加えて明記をすることにしてございます。

27番目でございます。津波による被害について、避難者の推計にあたって津波という特性も考慮する必要があるという御意見をいただいております。非公表資料12の49ページでございます。これも画面で表示してございます。算定の考え方を示したものでございます。左上、津波被災地の場合は、建物が全壊に至っていない場合でも、まず1つ目として浸水被害により屋内では生活が困難なケースが考えられること。2つ目として、津波警報等に伴う避難指示等が発令されている場合があること。3つ目として、自ら住宅を確保したり、親戚等への疎開といった形で避難所を離れるケースも多数発生することが想定されるということ、考え方のところに記載をしているということにしてございます。

28番目、同じく●●委員から、災害関連死の数はどの期間を当てるのかという御指摘をいただきました。非公表資料1の6ページ目からがその補足資料になってございます。今申し上げましたとおり、災害関連死を能登半島地震のケースと東日本大震災のケースから係数を設定しまして、2万6,000人～5万2,000人と算定してございますけれども、さらにページをめくりいただきまして7ページ目でございます。能登半島地震は、災害関連死の認定作業がまだ終わったわけではございませんが、令和7年3月24日時点で321人が認定されておりますが、その321人のうち97%が半年以内、321人全員が1年以内に亡くなったということになっておりますので、災害関連死はおおむね1年以内ということで、ほぼその中に収まっていることが能登半島地震の結果からも確認できたということの御報告でございます。

御意見の表に戻りまして、29番目でございます。●●委員から、災害関連死の期限や定義が市町村によってばらばらであるといった問題提起がございました。本文の134ページの2行目でございます。「災害関連死は、その要因が多岐にわたることから、対策の検討に当たっては詳細かつ速やかな状況把握が必要である」こと。そのためには、「認定作業の運用の効率化に資する事例集の拡充を図る」ということ。あとは、「速やかな認定を実施するための体制構築、過去の事

例をより専門的に分析する仕組みの検討が必要」だということで、今後の課題ということで位置づけをさせていただいております。

最後、30番目でございます。災害関連死について、東日本大震災における福島県は特殊な事情があるということを記載していただきたいという御意見を●●委員からいただいております。非公表資料6の28ページの画面で共有しているところでございます。上の箱書きの中で、さらに厳しい状況での災害関連死の発生規模の目安ということで、原子力災害に伴う広域避難が発生した東日本大震災の福島県においては避難者数1万人当たり210人ということで、宮城県・岩手県は40人だったのに対して210人ということで、かなり大きな人数が出ているということでございますので、こういったことも念頭に置いておく必要があるということで、目安として記載をしているという修正を加えております。

以上、前回の御意見に対する修正箇所を御説明させていただきました。

以上です。

審議

○どうもありがとうございました。

皆さんのほうで追加の御意見がございましたら、御指摘いただければと思います。皆さんが御発言いただいたことに対する修正ですが、これでよろしいでしょうか。

●●委員が何かありそうなふりをしているので。

○どの資料かが分からないのですけれども、「避難指示・避難勧告」と書いてあった場所があって、見つけられないのですが。

○「勧告」というキーワードを検索してみてください。見つけて直しますから。被害予測の手法のところですね。ちょっと探してみてくださいませうか。

そのほか、いかがでしょうか。

○●●委員も御指摘されていた非公表資料4の122ページの臨時情報に関するメッセージの不確実性のところが気になっております。122ページの10行目のところです。前回の主な意見等の10番に●●委員の御意見として、「臨時情報に不確実性があるわけではなく、臨時情報が伝える内容が不確実であることから、その旨を明確に記載いただきたい」とあるのですけれども、今のこの書きぶりだと、「臨時情報で発出されるメッセージ」というのは、国民に対してこういう対応を取ってくださいというのが臨時情報のメッセージだと思うのですね。それは不確実ではなくて、そのバックグラウンドにある後発地震をめぐる状況が不確実なのですよね。これだと、国が国民に対して出すメッセージが不確実であるというふうに読めてしまうので、ちょっと考えなければいけないかなと思ったのですけれども、いかがでしょうか。

○提案をお願いします。今日ここで決めて、皆さんから納得をいただかなければいけないので。

○分かりました。それでは申し上げます。

臨時情報の根拠となる、ここで後発地震という言葉を使っていいか、●●委員にも御意見をい

ただきたいのですが、「臨時情報の根拠となる後発地震の予測は不確実性を有するものであること」、そういう意味合いでいかがでしょうか。「メッセージ」という言葉は少なくともやめたほうがいいと思うのです。

○では、こうしましょうか。●●委員と●●委員と●●委員の3人で向こうに行って作文を練っていただいてもいいですか。ここで延々とやると無限の時間がかかるので、一番効率がいいのは●●委員と●●委員と●●委員であのへんでテーブルを囲んで提案をつくってみてください。大事なことなので。この文章は難しいのですよ。ちょっと練っていただいたほうがいい気がします。

そのほかの御意見があれば。

●●委員。

○29回議論を重ねてだけのことはあって、丁寧なことが書かれていると思います。ただ、全体を通じて、こういう議論するときにはいつも気になることは、被災した後の被災者がいて、被災の惨状というものを我々は目の当たりにして、その中で行政的な課題を次々と挙げていくわけですが、一番重要なことは命を守ること、命を守った暁に困った事態がいろいろ出てくるから、それに対する対処という議論になっていくと思うのですね。

135ページの「おわりに」を見ていただきますと、これは重要な国民に向けてのメッセージだとも思いますので少し注意深く読むのですけれども、まず冒頭に書き出しとしては、とにかく太刀打ちできないほどの巨大なことがあり得るのだということを明記した上で、8行目のところで、「防災に関わる特定の主体による取組だけでは到底太刀打ちできない」と書いてありますけれども、「特定の主体」と曖昧なことを書かずに、ここは「行政主体」と書いていただいたほうがいいと思います。

その上で、10行目から19行目までの文章を読むと、ここは生き残った暁の対応のことが書かれているのだけれども、最初の9行目までで、とにかく行政だけでは太刀打ちできないのだということを明記した上で、次に来るのは21行目からの文章ではないかなと思うのです。とにかく自分の命は自分で守る、そして、いろいろな対応を自ら取るということをしっかりやってくれということを、まずは、太刀打ちできないのだ、だからやってくれということを明確に書いた上で、その上で、生き残った暁に必要なことについては行政が最大限サポートするということを書くべきであって、順番が逆のような気がするのですけれども、いかがでしょうか。

○どうもありがとうございます。

ここを作文した事務局が向こうに巻き込まれてしまったので、事務局はそっちへ行っては駄目です。事務局は次々と皆さんから指摘を受けないといけないから。

1つ目は、135ページの「おわりに」の8行目の「特定の主体」というのは曖昧過ぎるから、「防災に関わる行政による取組」とか明快に書いたほうがいいのではないかという意見です。

太刀打ちできないのだから国民自ら頑張るしかないでしょうということを言ったほうがいいので、21行目からおそらく34行目までを1回先に9行目の後ろに持ってきた上で、それでもできないことに関しては次々こんなことを考えなければいけないよねという流れに持ってくるという、文章の順番を変えたほうが明快ではないかという御指摘です。

ここはあまり議論が必要ではなくて、文章の並びのことだから、事務局で、今みたいな形に修文するほうがやりやすいかどうか。

○ここの部分を作文したのは私です。

趣旨としましては、まず「特定の主体」をなぜこう書いたかと申しますと、行政以外にも防災対策に取り組んでおられた方が今までも多々いらっしゃって、そういった方の心を折らないようにする必要があるというような議論もあったこともありまして、行政だけが今まで取り組んできたわけではないけれども、今では不十分ということを示すには「特定の主体」という言葉にしたところではあるのですが、行政だけで太刀打ちできないということもそのとおりだと思いますので、ここは「行政」とさせていただく形でいいかなと。

○2行前に、行政主体による対応は限界がありと書いてある。これを「行政」にすると、同じことを2回繰り返しているだけになってしまう。

○では、意見を変えまして、6行目で行政の限界を述べた上で、今取り組んでおられる方、行政プラスアルファでも太刀打ちできないという表現とするために、このような表現でいかがでしょうか。

○●●委員、1点目は。

○「限界がある。」で一遍切って、その上で行政主体の取組だけでは太刀打ちできないという2段にするということですね。

○6行目に「行政主体による対策だけではリソース不足が生じることなどから限界があり」と現在も記載しておりますので、行政の限界を述べた上で、今後の見通しを考えると今取り組んでいる行政プラスアルファの対応だけでも太刀打ちできないので、さらなるという意味の2段で今も書いてございますので、原案でいかがでしょうかというところです。

○国民が依存しているのは、多様な主体ではなくて行政依存なのです。ですから、「限界がある。」で止めて。

○では、7行目のところで、「行政主体による対策だけでは限界がある。」と1回止めて、「また」という形で。

○それで「行政主体の取組だけでは到底太刀打ちできない」であるならばいいのではないですか。

○8行目の「特定の主体」を「行政」にすると、6行目の記載と同じ記載を繰り返すことになってしまうかと思いますが。

○8行目のところを、今後の人口推移や社会状況の見通しを踏まえると、これまで防災に関わってきた主体による取組だけでは到底太刀打ちできないという意図かなと読み取りました。

○これは2段構えになっていて、最初は行政だけではできていないと言いながら、今は行政プラスアルファで動いているから、そのプラスアルファのことを含めても太刀打ちできないという2段構えなので、意図としては●●委員が言った意図でいいと思います。だから、これは●●委員の意図は含まれている。その上で、現状の対応の枠組みでも無理であるということを示す追加している文章だと認識することでどうでしょうか。

○そういうことですかね。

○では、文章として分かりにくいのであれば、●●委員が言ったような表現に多少修正するというものでいいでしょうか。できれば、ここで議を得たいので、●●委員、もう一回提案してみてください。

○「踏まえると、これまで防災に関わってきた特定の主体による取組だけでは到底太刀打ちできない」。

○「これまで防災に関わってきた」とすることで、「特定の主体」をもうちょっと分かりやすくするということで、皆さん、この提案でいかがでしょうか。よろしいですか。

(首肯する委員あり)

○では、ここは決着がついたということにさせていただきます。

もう一点、下の段落2つを上にならべてきたらどうかという提案については。

○ここの趣旨は、10、11、12の3行の中で、助かった命や生活を維持することが大事だと書かれている。助かった命の話ですよ。助からなければいけないというところを前によこすべきではないのかなという趣旨です。

○おっしゃる部分は分かるので、書いた人がその趣旨に変更することでよいかどうか。

○●●委員がおっしゃることはごもっともでございます、その趣旨で記載したつもりでございます。10行目の「このような災害に立ち向かうためには、徹底的な事前防災により発生する直接的被害自体を軽減すること」、ここに耐震化等による家屋倒壊でありましたり、津波の避難意識や津波避難ビル・タワーの整備等によって直接的な人的被害も減らすことがまず一番大事だという意味で、「徹底的な事前防災により発生する直接的被害自体を軽減すること」というのを初めに書いたつもりでございました。

21行目からの国民へのメッセージの前提となる考え方が10～12行目とっております。ただ、国民へのメッセージをもう少し先に、重要度が高いので分かるようにという御指摘を踏まえまして、例えば12行目と13行目の間に21～26行目を持ってくるという修正ではいかがでしょうか。

○「事業者」は今の場所に残しておいて、「国民」のことだけを前に持ってきて、かつ10～12行目のところは命を守る話とその後の話があるから、ここを分けるということですか。事務局。これはよく考えないと、全体としてのトーンが合わなくなって難しくなるから。

これは、事務局と●●委員で1回、さっきみたいに考えてみてください。そうしないと今日決まらないから。

一方で、先ほどの提案については、●●委員から提案いただいて。

○122ページの10行目です。10行目の最初の○から、「臨時情報の特性を認識した上で」の手前までをカットしていただいて。

○もう一回言ってください。

○10行目の「国民や事業者等は……あること、行動指南型ではなく状況通達型の情報であることなど」を削除していただく。ちょっと読み上げます。

「臨時情報は地震が発生する可能性が高まっていることを示すものであるが、地震が発生するかしないかは不確実である。また、臨時情報は行動指南型ではなく状況通達型の情報である。国

民や事業者などは、このような」、その後は一緒です。「臨時情報の特性を認識した上で」。

○非常に明快だと思います。聞いている範囲ではとても明快でしたから、申し訳ないのですが、あそこに文章として映して、後で確認しましょう。

これで一步前進です。皆さん、今お聞きになって明快だったような気が印象としてあります。後で確認します。

では、皆さん、今の段階ではこれでいいでしょうか。そのほかにあったら言ってください。今日本当に決めたいので。

●●委員。

○2番目の●●委員、●●委員の災害関連死が外数であるという話ですけれども、概要資料の左上の死者が最大約29.8万人で、その下に【参考】で書いてあるからということですが、これでは外数かどうかというのが判断がつかないと思うのです。なので、死者のところをいつそのこと「直接死」と書いたらどうですか。そうすると、直接死と災害関連死が違うというのは明快になるのではと思ったのです。

○提案です。概要資料の「死者」というところをもう明快に「直接死」と。

○御指摘ありがとうございます。

「死者」という表現がいろいろなところに出てくるので、一個一個をフォローしていくのは難しいので、別の手段として、【参考】の災害関連死者数のところで上の死者数とは外数であるみたいなことをより明確に書くというのではいかがでしょうか。

○「直接死」と書くと影響が大き過ぎるというのが事務局の答えなのでしょう。

○括弧をして「上記死者とは別」と追記いただけたら。

○「上記死者に加え」とかですね。

○※2のところに書いてあるのを【参考】の「52,000人と推計」のところに。

○よろしいでしょうか。

○はい。

○●●委員。

○大したことではないのですが、今の表で、大きな字のところは何万人と書いてあるのですが、小さなところだと「万」というのが全部「000」となっているので、小さい字も「万人」とか「万棟」としたほうが分かりやすいかなという表記の問題です。

○提案は受け入れたいと思いますけれども、いいですか。

○ぜひ。

○「26,000人」は「2万6,000人」と書きますか、「2.6万人」にしますか。

○本文の41ページに、「2.6万人」となっているので。

○では、みんな「.」にしますか。分かりました。「2.6万」、「5.2万」、下のほうへ行って「3.1万棟」、「5.3万人」、「1.2万人」ということでよろしいでしょうか。

では、これは変更ということで決定したいと思います。

議論が終わったようですから、事務局から提案ください。

○「おわりに」でございます。先ほど●●委員から御提案がありました件でございます。

10行目の「このような災害に立ち向かうためには、徹底的な事前防災により発生する直接的被害自体を軽減すること」、ここで、国民一人一人がしっかり取り組むということがこの表現では分かりにくいということがメッセージ不足になるのではないかということで、「徹底的な事前防災により自分の命は自分で守るという意識醸成を図ることで、発生する直接的被害自体を軽減すること」ということで、ここの直接的被害を減らすというところがしっかり国民一人一人の取組が大事だということを明確にするという修正をしたいと思います。並びにつきましてはこのままで行かせていただければと思います。

○ということは、10行目のところに文章を追加して、国民主体の取組が重要であることをここで一旦説明するということですね。

○はい。

○では、もう一度読み上げてみてください。

○10行目からでございます。「このような災害に立ち向かうためには、徹底的な事前防災により、自らの命は自らが守るという意識醸成を図ることで、発生する直接的被害自体を軽減すること」。以下は同じ文章でございます。

○文章が長くなって読みにくくなっている気がするので、そこで1回自分でやってみて、文章が読みやすいかどうかを検討してみて、再提案してみてください。今、読めない文章になっていた気がする。意図は分かるのです。

○要は、直接的被害自体を減らすということが第三者的になっていて、自分の命を自分で守るという主体、一人称になっていないという感じがするのです。

○それは理解します。今、一文が長過ぎるので、どこかで1回文章を切ったほうがいい気がした。

○「軽減することが重要である。」で切って、「また、備蓄等の」にしたらどうですか。

○そうしかないと思うのですよ。一度冷静になって、そっちで考えて再提案をしてみてください。

そのほか、もしもあれば今のうちに伺っておきたいのですけれども。

●●委員。

○私の中で少しもやもやしているので、こんな感じでどうだろうかというところを皆さんの御意見を伺いたいのですけれども、主な意見で、また蒸し返すのですが、134ページの（４）のタイトルを「総力戦で臨む」の「総力戦」という言葉がということで書かせていただいて、事務局と事前にやり取りさせていただいて、承知しました、分かりましたと返事をしたものの、イメージがよくないといえますか、そもそも災害に対する取組姿勢が戦なのだろうかというところが私自身のこだわりポイントです。

私はもともと土木屋なので日本語はあまり詳しくないのですけれども、「総力戦」という言葉を検索してみると、デジタル大辞泉だと、「国家や組織の全分野にわたる力を一つに集めて行う戦い」と。

○これをもう一回ちゃんと考えなさいという提案でいいですか。

○はい。

○もしも考え得るとすると、「総力を結集する体制の検討」でいいですよ。

○結集ですか。

○「戦」が嫌であれば、そういうことになるだけなので。

皆さん、ほかの言葉の提案があれば。

○御回答が、ほかの文脈でもいろいろなところでこれを使っているからということだったのですけれども、そういうところはそろそろ断ち切っていただきたいというのが私の趣旨でして、戦ではないということを皆さんが合意いただけるのであれば。

○何か言葉を提案してください。

○「おわりに」の中の17行目に、「地域社会全体で地域の安全を獲得していくことが必要である」と入れていただけたので、ここは「地域社会全体で地域の安全を獲得していく体制の検討」というふうにしてもおかしくないかどうか。

○ここは地域だけの話ではないのですよ。

○「地域社会全体」なので。

○国も入るから。

○産業界も。だから、それは階層的な大きさと全部総力を挙げるので、地域社会だけを言うてはいけないから。

○この地域社会というのは、いわゆる狭いエリアのことを指しているということでしょうか。

○そうではなかったとしても、おそらく文字から得られるイメージがみんなばらばらになってしまくと、関係ないと思う人がいるのだとすると、それはやめたほうがいいのではないか。

○「社会」にする。

○「地域」を抜いて「社会」だけにする。

○だけど、「社会」と言うときやはり人によって解釈が大分違うので、あえて主体を書かないほうがよい。全てなのですから。

○今風に言うとオールジャパンです。それはちょっと口語的過ぎるので。

○では、「戦」を抜いて。

○そうすると、「総力を結集する」という言葉ぐらいを持ってくるしかないのですよ。

あとは、行政的にほかのところでこういう言葉をたくさん使っていて、それは改める方向はあまりないからこれで行きたいと意図が向こうから伝わってくるのであれば、そこを説明していただいて、いいと言うかどうかなのです。

○そのとおりだと思うのですけれども。

○10年後に変えてもらいましょうよ。

○そうですね。分かりました。

○「戦」を除くかどうかぐらいは議論してもいいような気はするのですけれども。

○そこまでのこだわりではない。よく使っているということではあります。

○高校野球でも戦、相撲だって戦ですよ。

○すみません。変なところで。

○●●委員がどこまで主張されるか。

○災害に対する取組は戦ではない。戦っているわけではないし、あらがっているわけでもないという論点です。

○でも、それは大事な論点なので。どうしましょう。「戦」を取ることはできるので。「総力を結集する体制」。

○「総力を結集して挑む」。

○「挑む」だと。

○また戦いになる。

○タイトルだけでなく、14、15行目にも出てくるので、こっちも通じないと。むしろ、14行目、15行目を直して、それをタイトルに反映させたほうがいいと思います。

○14、15行目に出てくる「総力戦」は、なくても意味が通じると思います。「関係者が協働し、災害対応に臨む体制を構築する」。

○多分、このぐらいないと強調できていない。今まで連携は当たり前にしていただけれども、連携ぐらいのレベルでは駄目なので。

○もっと本気を出せという。

○きっとその意図はあるのですよ。どうしましょう。

それぞれのの方の印象の個性のところでもあるので。

○私だけがもやもやしているだけでしたら、もうそのままにさせていただいて。蒸し返してすみません。

○僕は何となく●●委員の意図も分かる気がしていて、「戦」という言葉を入れることで別のニュアンスが発生して、戦だからこれぐらい我慢しろとかね。

○そうなのです。

○そのニュアンスを消したいということなのですね。

○それに、長期にわたって自発的に取り組むしなやかさが必要だから、戦というイメージは違いかもしれないですね。

○それも理解できますよね。「総力を結集して」ぐらいが一番落としどころのような気がします。

○●●委員、何か言ってくださいよ。文系なのだから。

○「決戦は金曜日」みたいなレトリックなのだから、それをどうこう言ってもしょうがないような気がしますけれども。

○それでは、「戦」に対するところは修正することにしつつ、「総力」というのは言葉としては使わせていただくとすると、「総力を結集して」。

「挑む」はどうなのですか。よろしいですか。

○「挑む」はちょっとバトル感がある。

○「臨む」ですね。

14行目からもそれで行けるような気もしますし、そのまま8行目のタイトルもそれで行けるのかなと思うのですが。

○では、「総力戦」は全部「総力を結集して」という言葉に変換ということで。

○ほかは多分出てこないよね。

○検索して確認します。

○出てきても全部それで置き換えて。

○では、●●委員、よろしいでしょうか。

○申し訳ございません。ありがとうございます。

○●●委員。

○非公開資料2の概要ですけれども、これは皆さんの印象も含めてお伺いしたいのですけれども、「実施すべき主な対策」の一番上の四角です。下に3つ、「直接的被害の減少」、2つ目が「助かった命・生活の維持」、3つ目が「生活や社会経済活動の早期復旧」となるわけですが、
「直接的な被害の減少」といったときに多くの人がイメージするのは物的被害ではないかと思うのです。「助かった命」が2番目に来るのだったら、その前に、1番の中に助かる命を増やすということが本当はより強調されなければいけないような気もするわけです。

それで、「直接的被害の減少」という言葉が持っているイメージが、経済被害みたいなことばかりに行きそうなので、助かる命を増やす社会を目指さなければいけないということをもうちょっと強調するためには、そのへんの表現を少し盛り込んだ形で再構成したらどうかなと思います。

○具体的な提案をいただきたいのです。

○それは僕だけのイメージなのか、それとも、そういう指摘に対してそうだとお感じになる方が多いかどうか。

○まずそれから行きましょうか。「直接的被害」というのは、災害が起きて直接的に発生する被害全般を言おうと事務局は意図されていると思いますから、当然、物的も人的も社会も全部が入っている言葉だと思います。端的に書こうとすると、この表現です。

一方で、ある程度長く書こうとすればいろいろなことが書けるというものなので、皆さんはどうお考えになるかをお聞きしたいと思います。

○死ななかった後の話は後に書いてあるので。

○全体として、主体的に避難行動を取ったり、一番大事なことは津波でも膨大な被害が出るということなので、主体的な避難行動をいかに増やすのかというのが、本来政策の方向性として一番重視すべきことなのだろうと思うのですね。

そのときに、この3つの項目の中で、「直接的被害」という言葉には間違いなく●●委員が御指摘のように物的、経済的、社会的、いろいろ入ってきている。それが直接的被害だということですが、誰も社会的正常性バイアスみたいなものがある、そこに自分が死ぬということについてはニュアンスとして感じ取れないという感じがするのですね。

「直接的被害の減少」というのは、経済被害の減少みたいな、日本全体の社会が被害を受けた、それを減らしましょうみたいな、すごく第三者的な、三人称な見方になってくるように思うので、その割には2番目に「助かった命」と来るから、いや、その前に助かる命を増やすことのほうが大事だろうと思うということを込めて、私の感想を述べたということです。

○だから、書くとすれば、「物的・人的・社会的直接被害の減少」とか、前にそれを載せるしかない。そうすると、もうちょっと全部の言葉を短くする。これを何行にも分けて書くと、概要版としての概要の意味がなくなってくるので、どれだけメッセージを端的につくるかなので、事務局的には今のような御発言に対してどう対応するのがよいと考えるか。

○ここは58ページの16行目を引っ張ってきているのだよね。

ちなみに、ここに「総力をもって」という言葉があります。「総力戦」はこれでいいのではありませんか。

○せっかく決着がついたのに、またそれを。

○ここに「総力をもって」という言葉が出てきているので。

○そこはもう全部揃えます。

○このオレンジの四角は16行目から19行目なので、ここなのですよ。

○●●委員。

○私は●●委員の言っていることに賛成です。端的にやるなら、最初に「命を守る」と入れれば。

「助かった命・生活の維持」という前に「命を守る」あるいは「命を救う」とか、そういうの入れたらいかがですか。経済被害、建物被害も、要するに命を守るためにやるわけだから、何のためにやるかという命を守るためにというメッセージにすれば。

●●委員、いかがでしょうか。

○若干、経済被害に触れないことがいいのかなという気もしないでもないですけども、一番大事なところはそこだという意味です。

○最後のほうに「生活や社会経済活動の早期復旧」と書いてあるではないですか。

○そうですね。

○だから、「命と社会を守る」でもいいのですよね。

○先に「命」があれば。

○「減少」ではなくて「守る」としてしまおう。

○そういう提案はどうですか。

○それで修正させていただきます。

○「命と社会を守る」。

○概要版が一番目に触れるので、ワーディングのレベルで少し精査したほうがいいということで言いました。

○58ページも平仄を合わせたほうがいいです。

○そうすると、「守る」で終わるから、「助かった命・生活」をどうしましょうか。「維持」にするのか、「維持する」とか、言葉の使い方を統一するかどうかです。これをやり始めると大変になるのですよ。

○スペースが2行になってしまう。

○2行にはしたくない。「助かった命・生活を守る」でもいいのですけれども、そうすると、3つ目が面倒くさくなるのです。だから、1個目だけ「守る」にしますか。

○本文がちょっと統一しづらいですね。概要資料はそれでいいのですけれどもね。58ページのほうが。

○本文のほうは、日本語として語尾は整えたいと思います。

○本文の17行目の①の書き方ですね。

○本文は全部、「何々すること」で揃えます。それでよろしいでしょうか。

○そうすると、①は「地震・津波から命と社会を守ること」。「命と社会」でいいですね。さっきのところもですね。「命と社会を守ること」。

○「直接的被害から助かった命や生活を維持すること」、「生活や社会経済活動の早期復旧を実現すること」。

○では、「こと」で全部うまくいきますね。

では、これで皆さん納得いただいたということでいいでしょうか。本当は皆さんに最後何分かずつしゃべっていただこうと思っていたのですけれども。

○ものすごく細かいことですが、このままはいけないと思ひまして、非公表資料4の41ページの10行目、臨時情報に関するガイドラインに関する記述ですが、これはただ「ガイドライン」としか書いていませんが、ほかにこの報告書に出てくるガイドラインは全部フルで何ガイドラインというのがきちんと書いてあるので、「南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応検討ガイドライン」ときちんと書いておいていただきたいと思います。

類似の事例がもう1か所あります。95ページの13行目、「復旧・復興ハンドブックや災害復興事例集」とありますが、まず、「復興・復旧ハンドブック」と初出なので、内閣府の「復興・復旧ハンドブック」、次の「災害復興事例集」は「災害復興対応事例集」が正しい名称だったと思いますので、念のため。細かくてすみません。

以上です。

○これは、今のように正確な表現に修正ということで、承認でよろしいでしょうか。

(首肯する委員あり)

○ありがとうございます。

●●委員。

○2つあるのですけれども、先ほどの「命と社会を守る」というのに対応して、非公表資料3の「具体的に実施すべき主な対策①」の構成がこれでいいかどうかという御確認を皆さんに。6ページ、7ページの項目出しがこれでいいかどうか。「命を守る」というキーワードが防災意識の醸成というところに含まれたのかな。どこに含まれているのですかね。

○上の箱に「直接的被害の減少」と。これは連動して。

○ここを直した上で、青字の項目出しがこのバランスでいいかどうか。

○まずは、上の四角の中の4行目ですね。「地震・津波からの『直接的被害の減少』」というところを、「地震・津波から」で、「の」を削って、「命と社会を守る」ということに修正をしないといけないというのが1つ目の御提案ですね。

その上で、それ以下のところでどこに問題がありそうですか。

○大きな問題はないと思うのですが、命を守る、社会を守るというのは全ての青字で塗られている項目が間接的に反映していると思うのですが、ダイレクトに命と社会を守るというものにつながるものが、ぱっと見、目につかないかなという気もしたのです。

○「命を守る」は書いたのではないですか。

○防災意識の醸成のところに入っていて、耐震化も入っているのですが、ちりばめられていていいですかという話です。

○それを実現するために、ちりばめられているという言い方もありますよね。

○そういう理解でいいですか。

○はい。

○それならそれで全然差支えないです。

○そこを再構成し始めると大変だから。

○では、これで行きましょう。

もう一点が、写真を入れ替えていただいたのですが、これは●●委員に決めてもらったほうがいいかなと思っていますが、7ページの下の写真の上の段の左側、炊き出しの様子という写真にキッチンカーから替わったのですね。前回、キッチンカーだけだと、キッチンカーを入れれば温かい飯が食えるかという、そうではなくて、ちゃんと大規模に仕込む場所がないと温かい御飯を食べられないから、むしろ、システム全体で想起されるような写真にしたほうがいいのかという発言で、この小さなセントラルキッチンになったのですが、これで通じるかどうか。

○●●委員、これでよいと思うかどうか。

○これがセントラルキッチンだとは分かりにくいように思います。単なる炊き出しに見えます。

○すぐに代わる写真を見つけられますか。

○探せば出てくると思います。写真を探します。

○あるいは、ポンチ絵でもいいですよ。

○給食室。

○これは給食センターですよ。

○もうちょっと大規模な給食センターというか、複数の小中学校に給食を出すような。

○事務局、このセントラルキッチンの写真はどこから持ってきましたか。穴水町でやっている結構大規模なやつがあるのだけれども。

○これは穴水町の写真です。

○これぐらいしかなかったのですよね。今回の被災地だとこれが比較的大規模だったと思います。

○給食センターの写真のほうがいいのかではないですか。

○一般的という意味であれば。

○これは実際に今回動いたやつだから。

災害現場ではないけれども、給食センターのものを持ってくるか、あるいは、ポンチ絵でもいいのだけれども。

○炊き出しでは駄目なのですか。

○炊き出しではうまくいかないで、こういうものをやろうという意図もあったので。

○そうだと思うのですが、本文にないので分からないと思います。文章がないので分からないと思います。

要は、被災者の生活環境の整備で、炊き出しとかトイレということが重要だということが伝わるのが重要で、セントラルキッチンでの調理の様子を写真で出したとしても、本文になれば理解できないと思います。

○確かにね。

さて、こういうことは議論し始めると無限ループに陥るのですが、これであっていいような気はしなくもないのですが、あえて別のものを探るかどうですか。

○例えば、トルコの給食拠点みたいな写真は、ちゃんとこういうふうにやらなければいけないのだなとは思いました。

○ここは皆さんの合意形成ですから。

●●委員から提案が出てくるのか。

○やはりポンチ絵で描いたほうが、文章よりも分かりやすいように思います。

○そうですね。●●委員は何かポンチ絵のいいやつを持っていますか。

○私は持っていないのですが、確認してみます。穴水町の絵とか。

○穴水町はありますけれども、全体の中でそのスペースを使っていいのかなど。

○結構幅広になるのですよね。

○もしかしたら、もっといいのがあるのかもしれませんが、この写真はキャプションで、これがセントラルキッチンで炊き出しをしているということを言葉としては説明しているつもりではありますので、それをもってというのでは不十分ということでしょうか。

○「具体的に実施すべき主な対策」というので写真が載っていると、こういうふうにやればいいのかと見えて、この程度でいいのだというふうに見えるのです。これは多分マンモス校の給食室よりも小規模ですよ。だから、実際の避難者数のオーダーを考えると、この規模では全く追いつかない。

○ちょっと別の議論をしましょう。今、ポンチ絵を一生懸命探してくれていますから。

そのほか、まだありますか。

●●委員。

○ありがとうございます。

非公表資料4の報告書案の136ページの13行目から14行目にかけて、「十分な理解を得られないケースも見られるが」という表現が気になります。そこを、「十分な理解を得られない」ではなくて、「積極的に取り組もうとしていないケースもあるが」ぐらいの言い回しに変えたほうがいいのではないかなと思うのが1点目です。

もう一点が、その前の135ページの21行目、「国民の皆様やそれぞれの地域に」と書いてある部分はよいのですが、一人一人の力だけで避難が難しい方もいらっしゃるの、支援が必要な方には事前に支援のあり方もきちんと考えていただきたいという趣旨の文章も加えていただけるとよ

いと思います。

もう一点が、非公表資料6の29ページ、災害関連死の中で要対処人口とありますが、要対処人口の中に人工呼吸器科の方を挙げていただいている、それプラス、本当は在宅酸素利用者もいると思います。

○もう一回言ってください。

○今、人工呼吸器を出していただいているのですが、在宅酸素利用者というのがいて、18万人ぐらいいるのです。なので、今回触れられていないのですが、これを「など」みたいな表現にするか、ほかにこういう人もいますみたいなものをどこかに加えていただくといいと思います。

同様に、長期間湛水する可能性が高い医療機関だけではなくて、福祉施設などもあるので、そういうのも将来的に検討が必要で済みたいな一文をどこかに入れていただくとよいと思います。

以上です。

○分かりました。

まずは、これも今決めないと駄目ですから、非公表資料4の136ページの14行目、「十分な理解を得られないケース」という表現を修正してはどうかということで提案を受けましたけれども、もう一度読み上げていただけますか。

○「積極的に取り組もうとはしないケース」はいかがでしょうか。

○事務局のほうでそういう表現に修正ということではいかがでしょうか。

皆さんのほうも、これはちょっと否定的だから、確かに今の提案はありのような気がしますけれども、いかがでしょうか。

「積極的に取り組んでいないケースも見られるが」。おかしいですか。

○ニュアンスが違うような。

○事務局、●●です。

もともとの意図としては、いいことをやろうと活動しているのに、乱暴な言い方ですけども、ネガティブキャンペーンにつながったり、売名行為などと評価されるケースもある。そういうことを意図して書いたつもりでした。

○そういう意味なのですね。そうすると、●●委員のように誤解されないような表現に変える。

●●委員、事務局としては誤解だそうです。

○「十分な理解を得られないケース」とすると、主語が誰かが分からないと思います。その主語が誰なのかというのを明確にする必要があるのではないのでしょうか。

○「支援活動に対して」ではなくて、「支援活動が理解されない」。「理解を得られない」と書くから、「支援活動が十分に理解されない」ということだと。

○同じだと思います。

○支援活動の重要性とか必要性ですか。必要性が十分に理解されない。

○「得られない」と言うとか何か変な言葉になってしまうから、「理解されない」。

○ただ、ネット関係の。

○今、●●委員からは、こういう議論をしていないのに書くのは変ではないかという意図の御発

言がささやかに聞こえましたけれども、どうでしょうか。

○事務局です。

議論していないというのはまさにそのとおりではありますけれども、もっと積極的に活動してもらうために。

○私が発言しました。社会全体で頑張っている人をもっと高く評価してあげないと。

○それは議論があったということでもいいですか。

○それを大分肉づけした。

○そういう意味で言うと、●●委員の趣旨をちゃんと表現しているかどうか。

○提案していいですか。13行目から14行目を「南海トラフ」の前までカットして、「南海トラフ巨大地震対策は、各主体が総力を挙げて取り組むことが不可欠であるゆえに」、最初に戻って、「事前の防災対策、発災後の応急活動や被災者への支援活動のような取組を社会全体で評価するような意識の醸成も必要である」。

○さすが、社会科学。●●委員のような人が常にいてくれないと前に進みませんから。ありがとうございます。

さて、これで社会の英知を集めたことになったので、よろしいでしょうか。今よりは意図は。

○画面共有します。臨時情報もそうですけれども、今のところです。

○せっかく●●委員がまとめてくれたので。

(文章修正作業)

○これで整理ができたような気がします。

○これで、先ほどの臨時情報のところもいま一度御確認いただきたいと思います。

○これ以外はいいいですか。まだありますか。

ないとしたら、これで文章をこの場でみんな確認して、できれば合意形成まで行きたいのですが。

●●委員、2個目は何だったかという、135ページに戻って、26行目の後ろに追記が必要であるということでしたよね。

○そうです。支援が必要な人の支援もちゃんとやりましょうという文章を。

○文章を具体的に提案してください。今日決めないといけないから。

○「また、支援が必要な方への支援体制も、きちんと構築していただきたい」。

○「併せて支援が必要な人への体制も整える必要がある」ぐらいでどうでしょう。

○これは「地域には」なので、「していただきたい」にしたほうが。

○そのぐらいでいいよね。忘れないように書いておけばいいですね。

○よいです。

○画面共有しています。御確認いただければと思います。

○「いただきたい」が続くと変なので、「津波から避難する意識をしっかりと持たなければならい。また、支援が必要な方への支援体制も併せて構築していかなければいけない」。

○すばらしい。●●委員を事務局の隣に置いたほうがいいですよ。社会学者は必要だというのは

ますます分かりますね。

文章をもう一回読み上げていただけますか。

○読み上げます。途中からですが、**「想定が厳しいものであっても諦めることなく、津波から避難する意識をしっかりと持たなければならない。また、支援が必要な方への支援体制も併せて構築していかなければならない」**。

○「支援」、「支援」と2つ来るから、「支援が必要な方への体制整備も」だけでもいいかもしれない。「体制も整えて」ぐらいか。

○今のところで1つ伺ってもいいですか。ここで支援が必要な方というのはどういう方を指しているのですか。避難行動に支援が必要ということですか。

○そう思います。私はそう思っていました。

○要支援者だけではなくて。

○ここはもう少し広い意味での支援者なので、この支援を必要とする方が誰かが分かりにくい。あくまで避難だけなのですかね。

○避難だけでなく、その後の生活もだと思います。

○そうですね。

○今回、要対処人口と出しているのです。

○そういうことですよね。

○では、表現として。

○「避難」は要らないということですね。だから、「支援が必要な方」でいいということですね。分かりました。

○これで2つ目が終了です。

●●委員、3つ目は何でしたか。

○3つ目は、非公表資料6の要対処人口の中に、人工呼吸器の人が入っているのですが、プラスで在宅酸素利用者もいるのではないかという話。

○ちょっと出してください。

○ここの表がもっといろいろな方がいらっしゃるのではないかと御指摘だと思います。確かに、そこはおっしゃるとおりだとは思いますが、逆に言うと、限定列挙して書いたつもりはなくて、それ以外の人は大丈夫だというメッセージでもないのに、御提案ではありますけれども、表の上に「可能性が高い」と書いてあるのが、可能性が特に高いみたいな感じで、全部ではないけれども、特に注意が必要だというような意味にするというのはいかがでしょうか。

○あるいは、これ以外にもこういう方も想定されますみたいな一文を加えていただくのもよいと思います。

実態は、人工呼吸器だけではなくて、先ほどお伝えしているように在宅酸素の人がいて、その人たちのほうがオーダーが大きいのですね。

それから、長期湛水する福祉施設の方々というのがかなりの数いるので、今回、それらが反映されていないので、どこかにほかにもありますよみたいな表記があるといいと思います。

○やるとしたら、注釈を書くということだと思いますけれども。

○1つは、「可能性が特に高いと考えられる」としつつ、表の下で※としてその他も、例示を出すかどうかというのはあるのですけれども、人が多いという意味で言うと、福祉施設とか今おっしゃられたことなども考えられるというような形でいくつか例示しながら。

○お願いします。

○具体的に考えてみてください。

まだ、●●委員が何かありそうです。

○今のところで、特に高いとか低いとかも含めてワーキンググループで議論したわけではないのですけれども、こういったことを例示しておくことは大事だよねという議論だったと思います。ですので、一番上の中でも、災害後の状況によって災害関連死につながる可能性のある方々の例示みたいな感じにする。

この議論はこれの議論でまた別途しっかりと災害関連死に関する委員会を立ち上げるなりなんなりして議論しないといけなくて、そこまではこのワーキンググループでやっていないと思うので、ほかにもある、高い例を入れたらどうかみたいな話がありましたけれども、ちょっと頑張り過ぎではないですかという感じがします。

○●●委員、一番上のところを例みたいにしておいて、一部の例であるということが一番上に書くことでどうでしょうか。

○よいと思います。

○では、そうさせていただくということで、事務局が今おっしゃったように、ここの表そのものは変更せずに、表題の書き方を変更。

具体的には、「中でも」と書いてあるところの最後が、「発災後の状況によって災害関連死につながる可能性が高いと考えられる例」。

○そうですね。例としていただいたらいいと思います。

○「考えられる事例」とか。「例」ぐらいですね。「人口」と書いてしまうと、いかにも全部正しいみたいに聞こえるから。

●●委員、それで許していただけないでしょうか。

○大丈夫です。

○ありがとうございます。

ここまで来て、あともう一個でしたね。そのほかはもうないですね。

30分には終えたかったのですけれども、皆さんから一言ずつ発していただきたかったのですけれども、発していただく時間が取れなくなっていました。こちらが優先なので。

では、順に文章を確認しましょう。

○非公表資料4の58ページ、3つの項目を並べた17行目からにつきましては、全て語尾を「何々すること」で揃えました。

122ページの10行目臨時情報のところです。こちらを御覧いただければと思います。読み上げます。

「臨時情報は地震が発生する可能性が高まっていることを示すものであるが、地震が発生するかしないかは不確実である。また、臨時情報は、行動指南型ではなく状況通達型の情報である。国民や事業者等は、このような臨時情報の特性を認識した上で、地震は突発的に起こる前提で迅速に対応できるような体制を整えておく必要がある」。

○よろしいでしょうか。すばらしい。

○続けます。

総力の部分は「結集して」と。これはまた全部検索して揃えます。

○「おわりに」の10行目の●●委員からお話があったところですが、自らの命は自らが守る」ということと、その後、議論がありました「命と社会を守る」という両方を反映する形で、「このような災害に立ち向かうためには、自らの命は自らが守るという意識醸成を図り、徹底的な事前防災により命と社会を守る必要がある。また、備蓄等の事前の備えの徹底等により、助かった命や生活を維持すること、早期復旧を図ることが重要である」という形にしてみました。

○皆さん、いかがでしょうか。明快な文章になったと思います。ありがとうございます。

そのほかには。

○セントラルキッチンのところですが、ポンチ絵的でもし示そうとするなら、今の右下に書いてあるようなものを、スペースの問題もあるのですが、工夫するとして、こういうを入れるというのは一案かと思います。

○この写真がちょっと矮小化しないであろうか。

○写真ではなくて、右側の図を入れるということではないですか。

○そうです。

○なるほど。今、この分は違うということですね。

○だから、写真の右側のこの図を入れましょうと。

○というのが一案と、あとは、御提案でありますけれども、穴水町の炊き出しの写真は給食室の規模が小さいということがもし気になるようでしたら、どこかの給食センターか何かの大規模なものを持ってきて、「炊き出しの状況（イメージ）」みたいに書いて、災害対応ではない通常の給食業務の写真かもしれないかもしれませんが、それをイメージとして持って来る。（イメージ）というキャプションをつけるというのも一つの案かなと思います。

○どうでしょうか。

どうぞ。

○先ほど、●●委員とここで話していたのですが、炊き出しの写真ではないと駄目なのか。例えば入浴の写真とか、自衛隊風呂の写真とか、そんなのでは駄目なのか。あと、炊き出しではないと駄目なのかなと。

この○の中に、「広域かつ膨大な避難者数を想定される中でも、炊き出し、入浴など」と書いてあるのですが、「食事、入浴など」では駄目なのですかね。炊き出しではないと駄目なのですかね。食事ですよ。炊き出しでなくてもいいのではないかな。

○温かい食事。

○そういう意味ですね。なるほど。温かい食事。

○では、「温かい食事」に変えますか。

では、皆さん、変えるということでもいいでしょうか。「炊き出し」を「温かい食事」に。

皆さん、そういうことで合意形成できたということでもいいでしょうか。

事務局的には、「温かい食事」でいいですか。

○写真はどうでしょうか。

○ポンチ絵にするのが一番無難。ただ、横長だから配置を工夫しないといけないという問題は生じますけれども。

○この会議の資料はいらないですよ。

○一番右側の会議資料がいらないのではないかという御意見が今出てきました。

情報共有会議の写真が大きいから、情報共有会議の写真のところに今のポンチ絵を入れて、セントラルキッチンのお風呂の絵を入れる。自衛隊の。

○自衛隊のお風呂しかイメージがつかなかった。何かもっとすてきなお風呂があれば。

○あるけれども、それは小規模なお風呂なのですよ。イメージされているのは自衛隊ですよ。

○それしか知らないの。コインシャワーでもいいのですけれども。

○そういう提案が出てきたのですけれども、事務局、どうでしょうか。そういうのがすぐ出るかどうか。

○さっきの2ページ後ろに出てくる。これから映します。左上です。

○提案としてはどうでしょうか。

●●委員。

○ここのコンセプトが場所から人への支援ということで、従来、支援が難しかった在宅被災者への支援が届くというところにポイントがあるので、先ほどのセントラルキッチンのポンチ絵を示いただく点はよいと思います。そちらに重点を置きつつ、情報共有会議を示していただくとういと思います。

○応援演説、ありがとうございます。

小さめにしても場所が取りにくいので、●●委員、カットというのは駄目ですか。JV0ADの人としては。

○私が言うのとあれですが、場合によってはセントラルキッチン方式に重点を置いて掲載していただいてよいと思います。

○この情報共有会議をカットしてセントラルキッチンを入れると、ちょっとスペースが空くので、ちょっと幅狭のものを入れようとする、今見ていただいている能登半島地震の自衛隊のお風呂を追記するという提案が出ているのですけれども、●●委員、いかがでしょうか。

○自衛隊風呂はこれまでもあったので、あまり新規性がないと言ったらまた怒られる気はするのですが、そこに出していただいている洗濯機みたいな事例もよいと思いますし、シャワーみたいな、ランドリーカーみたいなものもよいと思います。

○そっちを推しますか。

皆さん、これは事例なのであまりこだわってもしようがないのですが、メッセージ性はあるから、今の●●委員の言い方は、できれば従来からあるものではなくて新しく出てきているものを入れたらどうかという視点だと思います。

新しめのものということで、能登半島地震のやつもいいのですが、一人用だからそんなにたくさん使えないので、ランドリーカーを入れてみますか。皆さん、ランドリーカーでいいですか。

では、ここの絵はランドリーカー、トイレトレーラー、もう一つ、先ほどのポンチ絵。

●●委員。

○ポンチ絵で、町の飲食店組合と書いてあったのですが、別にそれにこだわる必要もないわけですね。

○ないです。

○だから、大量に食事が準備できる場所ということですよね。

濃いオレンジの町飲食店組合と書いてあるのだけでも、そこにセントラルキッチンと入れておいたほうがいいですね。セントラルキッチンなど。

○もともとある地元の業者を活用するというのも大事なポイントだと思います、このポンチ絵の右端を削るというのは良くないでしょうか。

○要するに、料理を専門とする機能をきちんと使っていくということが重要なわけですね。しかも、大量に食事を準備できる機能が重要なわけですね。それが分かるような表現を濃いオレンジの中に入れるといいかなと思います。

○セントラルキッチンで、地域の飲食店などが協力とか。

○問題は、これは誰かが作ったものなので、引用として持ってきているのか、修正していいのかどうかのポイントになるから。これは引用ですか。

○こちらの作成なので。

○では、修正はオーケー。

今の提案は、町飲食店組合というところをセントラルキッチンという言葉にしようということですね。

○●●委員はその限りではないとおっしゃっているので、プロが大量に食事を供給する機能。●●委員、翻訳してください。

○例だから、一般論ではないから、これはこれでいいことにしませんか。あと3分になっていますし。

○結構です。

○いいでしょうか。

これでもう今日確認するものは全てですね。

皆さん、時間をしっかり使って議論いただいたというのは素晴らしいことですので、今日、事務局のほうで最終提案をしていただいたものについて、全て目を通し、かつ、修正も終了し、その修正結果も含めてお認めいただいたということにさせていただきたいと思いますが、よろしい

でしょうか。

(承認の拍手)

○ありがとうございます。

皆様方の29回の汗の結晶でありますので、これを最終的に公表の手続きに入るものにさせていただきたいと思います。本当に御協力ありがとうございました。最後の最後まで知恵を絞っていただいて、ありがとうございます。

それでは、事務局にお返します。

○今後の取組に関して。これが知りたかったのです。

○とても大事なものが。これを簡潔にお願いいたします。

○非公開資料13でございます。

簡潔に、3ページ目と4ページ目だけ御説明させていただければと思います。

3ページ目、今後の進捗状況の確認ということでございますけれども、下半分に方針を書いてございます。基本計画見直し後は毎年フォローアップを実施したいと考えております。その上で、定期的に、各分野の専門家による御意見を伺いながら、課題の共有や施策の進捗の把握などを実施していきたいと考えているということでございます。

それから、4ページ目でございます。

この報告書を踏まえた今後の取組ということで、今後の課題をいろいろと整理をしていただいておりますので、普及啓発の取組、被害想定手法の高度化ということに取り組んでまいりたいと思います。

特に、被害想定手法の高度化につきましては、様々な御意見をいただいているながら、今回は十分な議論を尽くされなかったところもございますので、過去の災害の分析などしながら今後に向けた高度化を図っていきたいと考えておりますので、引き続き、有識者の皆様から御指導をいただければと思っております。

以上です。

○どうもありがとうございました。

まずは、毎年フォローアップをするということは、今までとは全く違って、進捗状況を毎年確認する場ができる、これは極めて重要なことで、これが明記されているということは大切なことであると思います。

それから、次ページにある事柄が今後の取組として示されているということは、内閣府を中心に何らかの検討の場をこのワーキンググループを受けてつくっていただける見込みがあるということですから、皆様の議論はこういった形で生きていると御理解いただければと思います。

一つ、何度もここで議論が出ていたことで言うと、被害予測の検討が始まってちょうど25年たちます。2001年から東海地震の専門調査会が立ち上がって、当時から被害予測手法があまり見直されていないので、この時点できちんと科学技術的な成果をどれだけ盛り込めるか、一旦議論を開始したいというようなメッセージもここに書いてあります。

皆様、よろしいでしょうか。

○どうしても一言言いたいのです。

今の今後の取組は、とりあえず内閣府ができることを書いているという感じで、非公開資料4の71ページ、72ページの中にあったように、今後の委員会で重視した防災意識の醸成や防災教育の充実に関する対策、あるいは地域の人々を巻き込んだ地区防災計画に関して何ら書かれていないというのがやはり行政的だなという意識がして、それに関してぜひ頑張ってくださいと思います。

○これは注文がついたということでもいいですね。

○はい。

○今の注文を議事録に明記しておくことが多分重要だと思いますから、おそらくその一部は1番のところに書いてあって、もやっと3番のところに書いてあるので、もう少しそれを具体的にやりなさいということだと思います。

事務局のほうはよろしいでしょうか。これは、ここを書き直せということではなく、忘れないようにしておきなさいという御指摘だと思います。

皆様、そのほかにありますか。

○既に自治体向けに説明されていると思うのですがけれども、その反響というか関心の焦点みたいなものを共有させていただければと思います。

○そういう意味で言うと、自治体向けとマスコミ向けにしていますから、そこでの御意見の一部を端的に、事務局、調べなくてもいいぐらいのしゃべり方で。

○頭が混乱していてすぐ出てきませんが、先週の金曜日と今週の月曜日に、都府県2時間、マスコミは計7時間半の対応をさせていただきました。

意見は多岐にわたって、特に災害関連死と半割れについては今回初めてチャレンジしたということでございまして、その考え方とか条件等の質問を多々いただきました。

特に、安全情報にならないようにという観点と、頑張ってきた人の心を折らないようにという両方の観点がある中で、どういった受け止め方をすればいいかというような御指摘を一番多くいただいたと思っております。

今回のフォローアップの数字については、あまり主に出てこないような整理をさせていただいたわけですが、今までの取組に対してどれだけ進捗があったのか、取り組んできたことの効果をどう見るのかというような御質問も多くいただいたところでございます。主な御指摘はそのようなものが多かったところでございます。

○皆さん、おそらくこれからたくさんの取材が入ると思いますけれども、できる限り前向きに、国民の人たちに対策を自ら進めていただくようにコメントいただけるといいのではないかと思います。

それでは、これで29回にわたって議論いただいた南海トラフ地震の様々な対策の見直しについて、これで終了させていただきたいと思います。2年にわたってどうもありがとうございました。

○福和主査、委員の皆様、本日も熱心な御議論をどうもありがとうございました。

それでは、会議の閉会にあたりまして、鳩山二郎内閣府防災担当副大臣より御挨拶を申し上げます。

ます。マスコミが入室いたしますので、いましばらくお待ちください。

(報道関係者入室)

○それでは、副大臣、よろしくお願いいたします。

鳩山副大臣挨拶

○**鳩山副大臣** 防災担当副大臣の鳩山二郎でございます。

南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループの閉会にあたり、一言、私から御挨拶を申し上げます。

福和主査をはじめとする委員の皆様には、長期にわたり貴重な御意見をいただき、改めて私からも厚く御礼を申し上げます。

本ワーキンググループでは、広域かつ甚大な影響が危惧される被害想定について熱心に御議論をいただいたところ、国民の命と社会を守る観点から、一人一人の防災意識を醸成することが重要であることを再認識した次第であります。

今後、関係省庁とも連携して取組を進めてまいりますので、委員の皆様にも、社会全体で安全を獲得していくために、引き続きの御協力を賜れば幸いですと思っております。

最後になりましたが、委員の皆様と関係者の皆様に改めて感謝を申し上げて、閉会の御挨拶とさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。

閉 会

○**藤本（事務局）** ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして本日のワーキンググループを終了させていただきます。ありがとうございました。

— 了 —